

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	理学療法治療学Ⅱ-A(中枢系)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対象学年	夜間部3年		学期及び曜時限	通年 月曜1・2限	教室名	901/機能訓練室
担当教員	金谷 規弘	実務経験とその関連資格	理学療法士として上山病院で勤務経験あり。認定理学療法士(臨床教育)。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法の治療内容の授業である。脳・血管系の主要疾患とその症状を理解できるようになる。また、各検査測定(観察含む)の意義目的が説明でき、理学療法評価(各検査測定(観察含む))・治療を選択・実践できるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
前期、後期ともに小テスト(15%)、課題レポート(15%)、学期末テスト(70%)で成績評価とする。前期と後期の平均点が、科目の総合評価となる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:①神経筋障害理学療法学テキスト(中枢神経障害理学療法学テキスト改訂第版)(南江堂) ②脳卒中理学療法の理論と技術第3版(メジカルビュー社)						
参考書:①理学療法評価学 第5班(金原出版)、②DVDで学ぶ脳血管障害の理学療法テクニック(南江堂) ③ベッドサイドの神経の診かた(医歯薬出版)、④脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)						
《授業外における学習方法》						
(予習)各回の授業内容を教科書①②で確認しておくこと。 (復習)実施後の授業内容を資料、教科書①②を基に復習すること。実技演習後は、その復習も行っておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
苦手意識を持ちがちな脳解剖について、事前に復習して授業内での脳血管障害の病態を理解して欲しい。また、評価と治療の意義目的や効果について説明できるようになって欲しい。出来るだけ症例イメージができるように努めるので、積極的に授業に参加してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	各バランス検査を模擬患者に実施できる。		PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を参考書①で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	評価⑦ CVA患者に対するバランス検査(FRT, FBS, 片脚立位など)				
第17回	授業を通じての到達目標	姿勢・動作観察のポイントが分かり、記録できる。		PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を参考書①で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	評価⑧ CVA患者に対する姿勢動作観察(観察のポイントと記録)				
第18回	授業を通じての到達目標	座位耐性訓練基準を記憶し、離床への判断ができる。		PC,プロジェクター 実習室	(予習)座位耐性訓練基準を確認する (復習)座位耐性訓練基準を記憶する	
	各コマにおける授業予定	座位耐性訓練, 離床(車椅子移乗)訓練				
第19回	授業を通じての到達目標	体位変換や良肢位の確保が実践できる。		PC,プロジェクター 実習室	(予習)左 i ii の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	ベッドサイド訓練の実際(i 体位変換, ii positioning, 移動介助など)				
第20回	授業を通じての到達目標	良肢位の確保、上肢体幹の関節可動域運動が実施できる。		PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	脳卒中片麻痺患者に対するPositioning, ROMex(上肢・体幹)				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	体幹下肢の関節可動域運動が実施できる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中片麻痺患者に対するROMex.(体幹・下肢)		
第22回	授業を通じての到達目標	脳卒中片麻痺患者に対するベッド上訓練が実施できるようになる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中片麻痺患者に対するベッド上訓練(神経筋促通法,ブリッジ,膝立て位開閉脚,など)		
第23回	授業を通じての到達目標	筋緊張異常を考慮した訓練が実施できるようになる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	訓練室での訓練(寝返り,起き上がり,座位保持)筋緊張の診かたとアプローチ		
第24回	授業を通じての到達目標	筋緊張異常を考慮した訓練が実施できるようになる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	訓練室での訓練(立ち上がり,立位保持,歩行)		
第25回	授業を通じての到達目標	反張膝,内反尖足,槌指,異常歩行に対するアプローチが理解でき,実施できるようになる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	訓練室での訓練(反張膝,内反尖足,槌指,異常歩行に対するアプローチ)		
第26回	授業を通じての到達目標	マット上訓練が実施できるようになる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	マット上訓練,長座位への起き上がり,パピーポジション,四つ這い位,床からの立ち上がり,Kneeling		
第27回	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害へのアプローチが理解できるようになる。	PC,プロジェクター 実習室	(予習) i ii の症状を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	高次脳機能障害へのアプローチ(i 半側空間無視, ii Pusher Syndrome, 注意障害, 失認, 失行など)		
第28回	授業を通じての到達目標	各種の治療の考え方を知り,理解する。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	治療の考え方 歴史を踏まえて・・・ Bobath法, Brunnstrom法, PNF, Rood法, 上田法, 中村法, 制御理論アプローチ, 認知運動療法の治療法の紹介		
第29回	授業を通じての到達目標	ADL指導の方法が理解できるようになる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中中のADL指導①		
第30回	授業を通じての到達目標	ADL指導の方法が理解できるようになる。	PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書①②で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中中のADL指導②、まとめ		